

平成16年10月

お客様各位

株式会社 陽進堂

「効能・効果」「用法・用量」変更のお知らせ

持続性経口用セフェム系抗生物質製剤
セファレキシン-R顆粒「ヨウシン」
(セファレキシン複粒)

今般、平成16年9月30日付の再評価結果通知に伴い、弊社の「セファレキシン-R顆粒「ヨウシン」」につきましては下記の通り、「効能・効果」「用法・用量」が変更になりましたのでお知らせ申し上げます。

今後のご使用に関しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

	再評価結果	再評価前承認内容
効能・効果	<p><適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス</p> <p><適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、バルトリン腺炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染</p>	<p>黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリスのうちセファレキシン感性菌による下記感染症</p> <ul style="list-style-type: none">●咽頭炎、扁桃炎、扁桃周囲炎、気管支炎、肺炎、喘息・気管支拡張症の感染時●腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、バルトリン腺炎●毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡感染、皮下膿瘍、蜂か織炎、ひょう疽、感染性粉りゅう、丹毒、創傷感染、乳腺炎、リンパ節炎●中耳炎、副鼻腔炎、外耳炎●麦粒腫、急性涙のう炎、眼瞼炎●顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髓炎、急性顎炎、歯槽膿瘍、歯根膜炎、智歯周囲炎、抜歯後感染

	再評価結果	再評価前承認内容
用法・用量	<p>通常、成人及び体重20kg以上の小児に対しては、セファレキシンとして1日1g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。</p> <p>重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファレキシンとして1日2g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。</p> <p>なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>	<p>通常、成人及び体重 20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして1日1g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。</p> <p>重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファレキシンとして1日2g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。</p> <p>なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>

以 上